



熱研夏塾オンラインセミナーに参加しました！



7月11日（日）長崎大学熱帯医学研究所が主催するオンラインセミナー「様々な感染症との攻防」に、中3生徒4名、高1生徒2名、高2生徒12名が、視聴覚教室から参加しました。

感染症研究で日本をリードする長崎大学、北海道大学、東京大学、大阪大学から4名の先生が登場し、研究内容の紹介や質疑応答が行われました。

大学・研究所	講演者	テーマ
北海道大学 人獣共通感染症 国際共同研究所	古田芳一 先生	「ゲノムを見て、細菌が病気を引き起こす仕組みを調べる」
東京大学 医科学研究所	小柳直人 先生	「ヘルペスウイルス感染症の制圧に向けて」
大阪大学 微生物病研究所	山中敦史 先生	「デング熱流行国で13年間ウイルスの研究を行ってきた」
長崎大学 熱帯医学研究所	佐倉孝哉 先生	「抗マラリア薬の作り方」

【参加者の感想】

- ・医療職は常に勉強が必要で知識を増やしていかなければいけないと痛感した。今回の講演で創薬に対する興味が湧いた。
- ・生物の授業で興味を持っていたゲノムについての講演で、ゲノム解析が具体的な治療薬につながるということがわかった。
- ・先生方がおっしゃった研究者にとって大切な資質である「忍耐力」「積極性」「語学力」「協働」を普段の生活でも鍛えていこうと思う。
- ・海外で活動されている先生の体験は、今後の探究で海外との交流をする上で参考にしたいと感じました。
- ・自分も毎年口唇ヘルペスになっていて、発症のメカニズムを知ることができたのは貴重な経験になりました。先生方のように自分がやりたいと思ったことに出会ったら挑戦する勇気を持ちたいと思います。
- ・探究活動でマラリアをテーマにしているが、日本の蚊取り線香は海外では効果がないとわかり、今後の研究を改めて見直す機会になった。



オンラインによる受講



質疑応答

